

今も続く汚染・被ばく・健康被害 原発回帰は許されない



2011年3月の福島原発事故の放射線被害の影響は、最低でも300年間は続くと言われており、12年経った今でも大きくは減少していません。食品に含まれるセシウム濃度は、減少傾向にはありますが、土壌の汚染はまだまだ厳しいものがあり、測定を通じた「はかる・しる・まもる」の活動は、今後とも継続していくことが必要です。

岸田政権は、ロシアのウクライナ侵略によるエネルギー価格の高騰を口実に、原発推進を国の施策として明確に位置付け、GX脱炭素電源法案等により、原発回帰を強行しようとしています。

原発事故災害は続いており、放射線による低線量被ばくや健康被害、避難者の苦難も何も解決されていません。汚染水の海洋放出による新たな汚染の拡大や汚染土壌の再利用による汚染の全国への拡大など、私たちにとって決して認められない施策も進行しています。

このような中で、12年経った現在の汚染や被害の実態をしっかりと確認し、今後市民測定所が果たすべき役割について学習し交流する機会を持つことにしました。是非、ご参加ください。

講演(14時30分) (オンライン講演です)

今も続く放射能汚染・健康被害と市民測定所の役割

大沼淳一さん (Cラボ市民放射能測定センター運営委員・みんなのデータサイト運営委員、高木基金顧問、原子力市民委員会福島原発事故部会等)

6月24日(土) 14時30分～17時00分

西宮市勤労会館 第2会議室

会場とオンライン参加

参加費：無料

阪神西宮駅東へ10分・JR西宮駅南7分



プログラム

- 14時15時 開場
- 14時30分
測定所の紹介とあいさつ
- 14時45分
講演(オンライン)
大沼淳一さん講演
- 講演後、質疑と休憩
- 16時30分 交流
避難移住者の方など
- 17時00分 終了

大沼淳一さんプロフィール

Cラボ市民放射能測定センター・未来につなげる東海ネット運営委員、みんなのデータサイト運営委員、内部被ばく問題研究会理事、高木基金顧問、原子力市民委員会福島原発事故部会メンバー等多方面で活躍されています。



*オンライン参加希望の方は、下記メールアドレスに参加希望の旨メールください。前日までにZOOMURLをお送りします。

阪神・市民放射能測定所 (〒662-0916 西宮市戸田町5-21 つむぎの家内)